

拓殖大学北海道短期大学 中長期計画

「教育ルネサンス 2030」

第I期総括

(2021 年度～2025 年度)



拓殖大学北海道短期大学

TAKUSHOKU UNIVERSITY HOKKAIDO COLLEGE

拓殖大学北海道短期大学

中長期計画「教育ルネサンス2030」第1期

基本戦略・個別計画 取組事項



教育・学生支援

基本戦略1 2学科体制の維持

個別計画 ①2学科5コース体制の維持

取組事項 (1)地域に根差した高等教育機関としての使命を踏まえ、農学ビジネス学科および保育学科の2学科5コース体制を維持・発展させながら、地域社会に貢献する専門人材の育成・輩出を行った。

基本戦略2 授業方法の改善

個別計画 ①農業の学びの幅を広げる授業方法の改善
②農学ビジネス学科教育課程編成の抜本的見直しの検討
③保育学科における授業・演習方法の改善

取組事項 (1)キャンパスが所在する北空知圏内が北海道内でも有数の稲作地域であることを踏まえ、「日本酒学」および「日本酒製造実習」を新設するとともに、スマート農業社会の進展に対応するため、卒業生企業の協力を得て農業用ドローン免許取得科目を設置した。
(2)全学生を対象に農・食・地域に関する基礎科目を必修選択とし、専門分野については学生の進路に応じて柔軟な科目選択が可能となるよう、カリキュラムの改定を行った。
(3)保育学科においては、Microsoft Teams を活用した教授体制を整備し、教材配布や課題提出管理のデジタル化を進めることで、学修環境の利便性と教育効果の向上を図った。

基本戦略3 拓殖大学各学部との連携強化

個別計画 ①国際学部農業総合コースの受け入れ継続
②商学部、政経学部、工学部との連携強化
③各学部の入門科目を遠隔で履修可能となるよう検討

取組事項 (1) 国際学部農業総合コース生の受け入れは、2012(平成24)年度の開始から15年間で累計387名となった。
(2) 商学部・政経学部のゼミナールと工学部による深川市内中学校での「ものづくり教室」を大短協働で実施し、設置校間の理解促進と交流の深化に繋がった。
(3) 大学との遠隔授業連携を計画したが、大学側の授業時間が105分へ変更されたことにより連携が困難となり、実施を見送った。

基本戦略4 SDGsの目標と協調する教育

- 個別計画**
- ①全教職員を対象にSDGsに関する講習会を開催
 - ②「講義要項」に各科目のSDGsとの関連を記載

- 取組事項**
- (1)SDGs教育の啓蒙は、「講義要項」の全科目に17のゴールとの関連性を記載することで完了した。
 - (2)授業科目として「SDGs基礎」を配当したが、全教職員対象の講習会開催は未達成。
-

基本戦略5 実践教育の深化

- 個別計画**
- ①科目の特性に合わせた実践教育の実施

- 取組事項**
- (1)企業や保育所で活躍している実務家による講義や実習を通して、学生の主体的な学びを深化させた。
-

基本戦略6 全人教育の更なる展開

- 個別計画**
- ①伝統ある「拓大ミュージカル」の新たな展開
 - ②全人教育の推進について大学生生活ガイドブックに記載

- 取組事項**
- (1)従来は保育学科主導で展開してきた「ミュージカル」を、全教職員が関わる大学行事として再編し、組織的な運営体制へと改善した。
 - (2)少人数教育を生かした全人教育の重要性を大学生生活ガイドブックに明記し、本学の教育特色の周知に努めた。
-

基本戦略7 デジタル化の推進とハイブリッド型授業の構築

- 個別計画**
- ①学生へのパソコン所有の義務化
 - ②大教室間の接続環境整備
 - ③FD委員会による授業改善

- 取組事項**
- (1)コロナ禍を経てオンライン授業やハイブリッド授業形態が浸透したことにより、学生のPC必携化への移行は円滑に進んだ。
 - (2)大教室および拓殖大学間をオンラインで接続し、イベントや研究活動の活性化を図ったところ、既存Wi-Fiを利用したZoomのウェビナー機能により、当初の目的を達成。
-

基本戦略8 就職指導の強化

- 個別計画**
- ①就職指導室の名称を就職支援室に改称
 - ②深川市近隣有力企業の企業説明会の開催(内容の強化・多面化)

- 取組事項**
- (1)地域社会への人材還元という短期大学の使命のもと、当初は深川市および深川商工会議所と共同して始めた企業説明会であったが、近隣市町村企業を含む合同開催へと発展させたことで、学生の就職先の選択肢を大きく広げることができた。
-



教職員・人事（研修）

基本戦略1 教職員の採用と待遇改善

- 個別計画
- ①中長期的視野に基づく教職員の採用
 - ②教職員の待遇改善

取組事項 (1)厳しい学生募集状況が続いたことから財政面での制約が大きく、教職員の採用および待遇改善は、光熱水費高騰に伴うわずかな手当の増額に留まり、当初の目的を達成するには至らなかった。

基本戦略2 SD、FDの継続的实施

- 個別計画
- ①教職員研修の実施
 - ②個人別目標値の設定による事務職員の意識向上
 - ③学生アンケートによる授業改善(アンケート内容の適時見直し)
 - ④ FD講習会の実施

取組事項 (1)在学生数が小規模である短期大学の特性上、対人コミュニケーションに課題を抱える学生も一定数存在するが、学生の多様性に柔軟に対応できることは本学の大きな特色である。この特色をさらに高めるため、FDでは障害教育の専門家を招聘し、教授法に関する研究を行った。

基本戦略3 教職員の資質向上を目指したFD・SD及び教職協働や各種研修制度の構築

- 個別計画
- ①ハラスメント防止対策の徹底

取組事項 (1)ハラスメント相談員の増員により、相談者が属性を超えて相談しやすい体制を構築し、相談環境の改善を実現した。

基本戦略4 労働環境・教育環境の整備

- 個別計画
- ①実験実習農場安全部会の設置

取組事項 (1)初年度に安全部会の設置を完了し、以降は毎年安全講習会を開催して安全意識の向上と事故防止に取り組んだ。



施設・設備

基本戦略1 施設・設備の整備

個別計画

- ①本館棟・体育館棟における施設・設備の整備
- ②農場における施設・設備の整備

取組事項

- (1)キャンパス開校から30年が経過したことに伴う経年劣化への対応として、必要な修繕工事を順次実施した。また、保健室への冷房設備の設置など、使用教室の特性を踏まえた改修整備を行った。

基本戦略2 図書館機能の拡充と地域公共財としての意義向上

個別計画

- ①図書検索システムの構築

取組事項

- (1)利用者からの強い要望を受け、図書検索システムを計画2年目に導入した。併せて、同システムを活用した簡便な貸出・返却サービスを開始し、利用者の利便性向上につながった。

基本戦略3 農産加工実習室の拡充

個別計画

- ①農産加工実習室の拡充
- ②北短農産加工プロジェクトの検討
- ③農産物販売所開設の検討

取組事項

- (1)農産物の栽培にとどまらず、収穫した作物を加工することで新たな価値を創出した。

基本戦略4 ログハウスの活用

個別計画

- ①年間を通した利用計画の検討

取組事項

- (1)学生・教職員で構成するログハウス活用プロジェクトを新設し、農産物販売や各種イベントでの活用を検討・実行することで、地域連携および学内活動の活性化を図った。

基本戦略5 実験・実習農場の活用と希少農作物のアピール

個別計画

- ①全学における農場活用の検討
- ②農場公開デー等による一般市民への公開
- ③地元ホテルにおける「拓大農場コーナー」の設置

取組事項

- (1)新カリキュラムでは必修科目として「農業基礎実習」を導入し、全学生が農業の基礎を学修できる体制を整えた。
- (2)コロナ禍に伴い一時的に人数制限を設けて実施した「農場公開デー」や、地元ホテルに設置した「拓大農場コーナー」は、農業教育の周知・広報に資する取り組みとして継続した。

基本戦略6 産官学共同プロジェクトの推進

個別計画

- ①産官学共同プロジェクト立ち上げに必要な学外関係の構築
- ②「深川市地酒プロジェクト」FSの実施

取組事項

- (1)当初計画したキャンパス内への酒蔵設置については、内閣府の許可を得る段階まで進んだものの、現校地の用途地域変更手続きが極めて困難な状況にあることから、FSを終了した。

基本戦略7 拓殖大学北海道研修所の活用法の検討

個別計画

- ①拓殖大学北海道研修所の活用法の検討

取組事項

- (1)研修所の有効活用に関わる検討は、市街地から離れた立地と給食サービスが出来ないことが障害となり結論には至らなかった。





経営・財務・その他

基本戦略1

資金収支の均衡

個別計画

- ①入学定員確保による単年度事業活動収支均衡の実現

取組事項

- (1)学生募集環境の厳しさが続き、十分な回復が得られなかったことから、財務体制の安定化には至らなかった。
-

基本戦略2

学生生徒等納付金以外の収入の確保

個別計画

- ①外部研究資金の獲得推進
- ②共同研究規程の策定
- ③教育研究施設拡充資金の募金活動強化
- ④深川市からの支援の継続

取組事項

- (1)5か年計画の目標に掲げた外部研究資金の獲得額は目標額に到達することができた。
-

基本戦略3

地域になくてはならない
深川市唯一の高等教育機関としての能力向上と発信能力の強化

個別計画

- ①拓殖大学北海道短期大学経営戦略会議の設置
- ②広報委員会による多様なメディアを活用した情報発信
- ③拓殖大学北海道短期大学研究紀要の発行と査読化の検討
- ④「農業セミナー」「農場公開デー」「保育セミナー」等の実施

取組事項

- (1)「大地に学び、地域と歩む。」をスローガンとして掲げ、大学の存在価値の周知に努めた。
 - (2)農業セミナーは開学以来一度も空くことなく59回、農場公開デーは22回、保育セミナーは29回実施し、大学の取組みを深く地域社会に理解して貰う機会に資した。
-

基本戦略4 学生募集力の強化

個別計画

- ①経営戦略会議による入試戦略の策定
- ②入試委員会による行動計画の立案・実行
- ③農業分野における高大連携
- ④保育分野における高大連携の検討

取組事項

- (1)入試委員会を経営戦略会議の所管とする体制へ再編し、高大連携および地域との包括協定を基盤とした戦略的 student 募集を進めたが、残念ながら学生募集の回復には結びつかなかった。
- (2)北海道内・外の高等学校(深川東高、札幌静修学園高、愛農学園高、水戸農業高)との連携による学びの拡充を図った。

基本戦略5 拓殖大学学友会・拓殖大学北海道短期大学同窓会並びに本学後援会との関係強化、経営懇談会による支援

個別計画

- ①拓殖大学学友会、拓殖大学北海道短期大学同窓会との連携強化
- ②経営懇談会の定期的開催

取組事項

- (1)地元の名士である学友会北海道連合会各支部長を構成員とする学生募集支援チームを組織し、学生確保に努めた。
- (2)地元の行政、商工会、農業協同組合の重鎮と定期的に懇談会を開催し、産官学の協働体制により課題解決に向けた取組を進めた。

基本戦略6 創立60周年記念行事の準備と挙行

個別計画

- ①創立60周年記念行事準備委員会の設置
- ②創立60周年記念行事の挙行

取組事項

- (1)令和7年度保育学科および令和8年度農学ビジネス学科の募集停止が決定されたことから、当該計画は実施を見送り、中止する結果となった。

